

保護者の皆様へ

高森町立高森中学校長 高宮明親

保護者の皆様、本日はお忙しいところご来校いただき、ありがとうございます。拙い話しではありますが、お付き合いのほど、よろしくお願いいたします。

1 どんな子に育って欲しいですか？

昭和 37 年（60 年前）に、内閣府が保護者 3000 人へ調査した結果が以下です。

あなたが、子供さんの将来について希望することはこの中ではどれでしょうか。一番あなたの気持ちに近いものを1つだけ選んでください。

1 位	好きな道で自由に才能を伸ばすこと	26%
2 位	不良化しないで、まともな暮らしをすること	15%
3 位	収入のよい安定した職業につくこと	13%
4 位	大学に入って学問を身につけること	10%

選択回答制なので、保護者の皆さんとの思いとは少しずれがあったかもしれません。しかし、このような選択肢しか用意されていないということは、その時代の「子どもに期待する姿」が伺われます。

続いて令和の調査です。今の時代、この手の調査が多いため、調査によって結果もまちまちですが、次のサイト「パパママの本音をウーマンエキサイト×マチコミ（緊急連絡網アプリ）で調査！毎回 5000 人～10000 人のパパママが回答」令和時代「親が子どもに望むこと」調査によると、

Q. 令和時代を生きる子どもに親が望むことは？

1 位	失敗しても立ち直れて成長できること	46.0%
2 位	自分の力で道を切り開けること	38.9%
3 位	世界の人とつながり協同できること	5.6%
4 位	AI に負けない考える力を持つこと	3.3%

皆さんのお考えは、昭和に近いでしょうか？令和に近いでしょうか？

どうして、令和の回答がこのようなになったかを考えてみますと、既にお気づきのことと思いますが、現代がとても不確実で、将来の見通しが持ちにくいという背景があるからではないでしょうか。

例えば、コロナ禍明け？ 大災害 環境問題 不況・物価高騰 ネット社会 少子高齢化・・・

60 年前は、1 回目の東京オリンピックを控え、それこそ日本は上り調子の時代でした。問題がなかった訳ではないでしょうが、上記のような社会が 60 年後にやってくると考えていた人は、ほとんどいないでしょう。そう思うと、今から 60 年先、いや 30 年先、10 年先の時代を予想でさえ難しいのかもしれませんが。まさに、「予測不可能（困難）な時代」がやってきているのです。

このような時代に私たち大人は、どんな子どもになって欲しいのでしょうか。そして、そのために何をしていけばいいのでしょうか。

その前に、高森中の生徒について触れてみます。(私自身も、ともに成長していきたい者として)

【高森中生の良さ】

○素直で優しい

人の話にきちんと耳を傾け、決められたことをきちんとやろうとします。例えば、清掃や生徒会活動などの取り組みが誠実です。小さなトラブルはあるものの、自身の姿を振り返りながら、相手の立場に立って考えることができる生徒が多くいる。

○真面目で一生懸命

ルールを守って生活できています。授業や部活導への取り組み等、誠実に取り組みます。状況を読みながら、周りに合わせて生活することができます。

【高森中生の課題】

○主体性、積極性という面でさらに

進んで発言するとか、学習課題に向かって粘り強く取り組もうとする点でさらに努力したいと感じる部分があります(どうしたらよいか戸惑っている? 周囲の様子を伺っている?)。

生活面では、例えば挨拶をみると、中学生という発達段階もありますが、自ら相手に聞こえるような声で挨拶できる生徒が少ないか(恥ずかしい? 自信が持てない?)。

全体として受身がちで、進んで何かに取り組むとか、切磋琢磨して伸びようとすると言ったたくましさが弱いと感じられるような。

このような課題は、先ほど取り上げた令和時代の親が子どもに望むことに出てきた「失敗しても立ち直れて成長できること」「自分の力で道を切り開けること」と重なる部分があります。

上記のような生徒の実態を基に、本年度も、学習面でも生活面でも生徒の主体性の向上を大事なキーワードとして、「共に生きる」(互いに学び合う、互いに高め合う学習集団・生活集団づくり)を様々な場面で取り上げながら高めていきたい。

友と関わりながら

「自ら考え自ら動く生徒」を育てたい

そのために

- 生徒の意欲を引き出すための授業改善(対話的・協働的な学習)、生徒主体の部(クラブ)活動
- ICT 機器等の活用を踏まえた、自分らしい学習スタイル(自学のあり方)
- 校是「あとみよそわか」～確かめ・見直し・整える～ 日々の生活づくり
- 他者の気持ちを理解し、自分の思いを語ることでできる学びの場
- 小中連携、町との連携
- 地域と共に歩む学校づくり(地域の学び、地域で育ち、地域を生かす)
- 安心・安全な学校づくり(高森町コミュニティスクール・学校運営協議会とのさらなる融合)
- 自分らしい学び応援事業(一人一人を大切にしたい支援)

英国に「馬を水辺へ連れていくことはできるが、水を飲ませることはできない。」という諺があります。いくら周りが支援しても、本人がその気にならない限り、物事は進まないという意味です。

私たち大人ができることは、子どもに教え込むことではなく、子どもの可能性や実力をいかに引き出すか、自分で動けるようにしていくかということだと考えています。結果も大事ですが、取り組む姿勢を「自ら伸びようとする姿」と位置づけ、大切に扱っていきたいと考えています。



保護者の皆さんと一緒に「自ら考え自ら動く生徒」を目指していきたいと思います。ご支援、ご協力お願いいたします。

部活動の地域移行（地域展開）をめざした これからの学校部活動について

全国各地で『これからの部活動のあり方』について検討会等が開催されていますが、長野県においても地域移行に向けた取り組みが進められています。

- 原則として、休日・平日ともに全ての中学校部活動を新たな地域クラブ活動に移行する
- 国が示す令和7年度までの改革推進期間中に新たな地域クラブ活動の環境整備を鋭意進め、可能な限り早期の実現を目指しつつ、地域の実情に応じ、令和8年度末を目途に休日の中学校部活動の地域クラブ活動への移行完了を目指す
- 平日はできるところから移行を進め、難しい場合でも生徒の活動を保障しつつ、教員の勤務時間外の部活動指導を減らす工夫を検討・実施する
(中学校部活動地域移行 周知啓発リーフレットより一部抜粋)

中学生期の部活動は、生涯にわたってスポーツや芸術に親しむ習慣を身につけ、体力・運動能力・芸術性の向上を図るとともに、仲間と互いに競い、励まし、協力する中で、公正さと規律を尊ぶ態度や克己心を培うなど、生徒が心身ともに健やかに成長していく上で、極めて重要な活動である。

①生徒(教職員)一人ひとりに寄せた学校部活動としての適切な活動時間及び活動内容

1日の活動時間は、長くとも平日では2時間程度、学校の休業日は、長くとも3時間程度とし、できるだけ短時間に、合理的かつ効率的・効果的な活動を行う。

→ 平日の部活動については完全下校（夏期6:15、冬期4:25）までとする。

(※ただし冬期期間中の新人大会やアンサンブルコンクールの2週間前から限って、週2日まで保護者の皆様に送迎のご協力等をいただきながら、18:30までの特別許可活動の実施を可能とします)。

②めざす地域部活動を通じた多世代交流や地域コミュニティの活性化

- ・中学生のみならず、地域の方々と一緒に活動を楽しむ
(新たなライフスタイル！)
- ・競技力向上だけでなく、多様なニーズに応じた活動の自由選択
(実はあれもこれもやってみたい！)
- ・地域のレッスン塾で部活動に生かす技能を高めたい(各自のレベルアップ！)
- ・今ある部活動の時間をより充実させ、その他の時間はゆっくりしたい
(自分にあった生活リズム！)



☆生徒一人ひとりの『〇〇したい、(新たに)挑戦したい』を大事に！

そんな願いを少しずつ実現するために、とも地域部活動を創り上げていきたい！

3 教員の働き方改革と非違行為防止について

○教員の仕事をもっと魅力あるものに

長野県教員採用志願者割合 かつては志願倍率2桁上が普通であったが…

全国的に志願者数の減少、教員不足が深刻化

教員はブラック、大変というイメージが定着 → 働き方改革の推進

教員がゆとりをもって子どもと向き合うことで、教育の質を上げる。

一方、教員ならではの仕事の素晴らしさを伝えていきたい。

○許されない教職員の非違行為

子どもの前で、堂々と胸を張って自分を語ることができる高森中職員を目指す。

・ 非違行為防止研修の実施 ・ 校内ルールの確認

4 その他（相談窓口）

○セクハラ・いじめ相談…保健室

○話しやすい職員へ相談を

校長、教頭、学級担任、教科担任、養護教諭、部活動顧問、

育ちの場コーディネーター、特別支援コーディネーター、スクールカウンセラー

